

## 令和3（2021）年度 追手門学院中学校・高等学校 学校評価

### 1. めざす学校像

新教育の推進と成果を世界へ発信する拠点校としての位置付けを確立し、難関国公立大学や海外有名大学への進学を可能とする進学校

### 2. 中期的目標

1. 新教育の確立による唯一無二の進学校化
  2. 海外大学への進学や海外での生活を可能とするグローバルマインドの形成と英語4技能育成プログラムの構築
  3. 安定的な志願者の確保につながるブランド力の向上
- ①新教育の徹底と発信  
②第一志望進路実現100%  
③募集の安定  
④安心安全な学校の構築  
⑤働き方改革の推進

### 3. 自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見

自己評価アンケートの結果と分析【2021(令和3)年11月実施】	学校関係者評価委員会からの意見
<p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に続き、ほとんどの項目が高評価であった。</li> <li>・昨年度相対的に評価が低かった項目が改善された。コロナの影響もあり、国際教育の評価が落ち込んだが、今年度は大きく改善した。一部の希望者だけを対象にするのではなく、全生徒を対象とする取り組みを実施したこと、在学中の海外への留学制度の整備と保護者を含めた説明会の充実などの結果だと考えられる。また、担当者を置き、年間を通じて留学や海外進学に対するアドバイスができたことも要因である。</li> <li>・今年度も、担任指導に対する評価は非常に高かった。また、安全な学校生活の項目も極めて高い評価となった。学習意欲や進学面での評価も向上した。</li> <li>・学校行事への評価が大きく下がった。アンケート実施の段階では、コロナ禍により、様々な取り組みがキャンセルされた結果であると考えられる。</li> </ul> <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に満足度が高く、特に入り口の中1・中2、高1で特に高い評価となった。生徒と同様、学習や進学に関わる項目で評価が向上した。</li> <li>・生徒と同様、安全な学校、コロナ対応、担任指導は極めて高い評価となった。</li> <li>・昨年度に続き、特に高3では、大学受験・進路指導の項目で高評価となった。</li> <li>・生徒と同様、国際教育の評価が向上した。中・高の生徒全体を対象にしたオンラインでの国際教育・キャリア教育の取り組みを、後日、保護者の方にも配信したことが評価につながったものと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経営目標に挙げられていることは、どれも学校にとって大切なことである。特に理念は大切だが、生徒たちはまだ理解不足であるし、追手門の生徒としてどうすればよいのかがわからないように思う。何か工夫が必要。</li> <li>○アンケートで生徒・保護者と教員の評価に乖離がある項目がある。その原因を探り、取り組みに工夫をしていく必要がある。</li> <li>○大学への合格実績が大きく向上していることは、嬉しいことだ。生徒たちが、チームとなって学習を進めていたこと、自分の進学先が決まってからも友達と一緒に学習を続けていたことなど、とても評価ができる。</li> <li>○新しい授業の進め方や、探究の活動の成果が大学合格ということにもつながったことはとてもよかったし、安心できた。</li> <li>○学習習慣等については、保護者の評価としては厳しい面もあるが、学びのモチベーション向上については、学校だけでなく、家庭も一緒になって取り組んでいくべきではないか。</li> <li>○中学への入学者が増えず、学校は苦勞しているようだが、追手門学院小学校からもっと入学してほしい。学校としても何か工夫が必要か。</li> <li>○子どもは、卒業してからも大切にしている友人ができてよかった、楽しい学校生活だったと言っている。今後もそういう学校であり続けてほしいと思う。</li> <li>○先生の働き方改革についてはいいことだ。先生も働きやすく、かつ、生徒も楽しく学べる学校作りを進めてほしい。</li> </ul>

4. 本年度の取組み内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 新教育による学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科会議のさらなる活性化と会議や研修を通じての継続的授業改善</li> <li>・新たな評価基準の定着と運用</li> <li>・個別の学びの推進</li> <li>・放課後学習の体制の個々の生徒に合った再整備</li> </ul>	<p>(1) 対話重視の教科会議の推進、教科主任会中心の学内研修会の開催を行う。</p> <p>(2) 新しい評価基準の設定を完了し、運用につなげる。新カリキュラムにおける観点別評価のあり方を検討し、次年度からの高1実施に向けての準備を進める。新カリキュラム下での新たな科目の授業の進め方の研究を行う。</p> <p>(3) 高2で実施していた修学旅行を、探究旅行に改め、学びの一環として捉えたものへと変更する。外部業者とのコラボにより、新たな教育プログラムを構築する。</p> <p>(4) 放課後学習の体制を個々の生徒の状況にあった形に再整備する。</p>	<p>(1) ・教科会議、教科主任会議での研修・対話の実施 ・教科主任会主催の授業研修開催回数 ・授業アンケート、学校評価アンケート</p> <p>(2) ・新たな評価基準の作成 ・学校評価アンケート ・授業評価アンケート</p> <p>(3) ・新体制の高2探究旅行の実施 ・探究旅行の取り組み内容の発信 ・外部業者との教育プログラムの構築</p> <p>(4) ・放課後学習の参加者数 ・学校評価アンケート</p>	<p>(1) コロナの影響により延期・中止となったこともあったが、教科主任会主催の全体授業研修を3回実施でき、次年度の計画も進んでいる。学校評価アンケートでの学習意欲の向上の項目が著しく向上した。</p> <p>(2) DPとCPに基いて教科内で新たな評価基準を作成したが、まだ十分な運用にまでは進めていない。非認知能力の計測を可能にするシステムの運用も各学年で進められている。新たな観点別評価についての検討が進み、次年度の運用に向けての準備が整っている。</p> <p>(3) コロナの影響を受けたが、3方面の探究旅行のうち、2方面は実施済み。残りの方面も4月当初に実施できた。日常の探究の取り組みを、旅行先でも実践できるように計画した。現地のメディアにとりあげられ、日常では経験できないような現地の人との対話を通して、課題に取り組むことができた。生徒の満足度も高かった。</p> <p>(4) 個々の生徒が、自らの状況に合った放課後学習のスタイルを選ぶことができるようになった。高1を中心に利用者が増え、定着してきている。チューターによる細やかな指導や学習面談が好評である。生徒の学習習慣の項目での評価も向上した。</p>
2 第一志望進路実現100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学新入試の分析と対応検討、全生徒の大学入試共通テスト受験</li> <li>・データブック・進路の指針の改訂と、低学年向け進路の指針の刊行</li> <li>・提携関係にある海外大学との連携強化と、CEFRスコアに基いた英語4技能育成</li> </ul>	<p>(1) 大学入試の大きな変化について生徒・保護者に周知し、生徒の第一希望の進路実現につなげる。</p> <p>(2) 進路データ集の新規作成とその活用、低学年向け進路の指針作成</p> <p>(3) 海外大学・高校との連携関係の強化と海外留学・進学体制の再整備</p> <p>(4) 英語4技能指導の方法、英語検定試験と授業の在り方とのつながりの再整備</p>	<p>(1) ・生徒・保護者向け進路説明会の開催 ・学校評価アンケート ・共通テスト受験者数 ・第一希望進路実現生徒数 ・学校評価アンケート</p> <p>(2) ・データ集作成 ・低学年向け進路の指針作成 ・学校評価アンケート ・第一希望進路実現</p> <p>(3) ・担当部署の制度整備 ・生徒・保護者向け進路説明会の実施と参加人数 ・留学・進学人数 ・学校評価アンケート</p> <p>(4) ・GTECスコアと生徒の英語力の評価についてのワークショップ開催 ・検定試験の受験者数、合格者数 ・検定対策研修の開催</p>	<p>(1) 学習推進・進路指導部から進路指導部を独立させた。また、放課後学習の担当も進路指導部の所管に移し、自習室の運営についてもより丁寧に行うことができた。</p> <p>(2) データ集は、年度初めに予定通り刊行できた。中学・塾に配布した。従来の高3向けに加えて、高1向け・高2向けの進路の手引きを新たに刊行した。低学年次からの意識づけができ、保護者からも丁寧な指導に対して評価が高まった。</p> <p>(3) コロナ禍で対面の説明会を開催しにくかったが、休業期間中も動画を配信したり、低学年の保護者を積極的に誘導した結果、生徒・保護者ともに学校評価アンケートの満足度が向上した。</p> <p>(4) 高大連携推進委員会において、取り組み内容を共有し、また、高大接続の面でも制度を再整備した。コロナ禍ではあったが、マレーシアのTaylor's Universityとの連携で指定校推薦枠が設けられ、2年連続で本校から進学者が出た。</p>

<p>3 生徒募集の安定</p>	<p>・近隣エリアからの募集力強化とそのため的人员配置・募集体制の整備 ・各学年・分掌の教育広報面からの発信強化 ・高校新コースの早期での周知と、「出前授業」等の開催 ・新規開拓エリアでの受験生掘り起こしと中学入試での特色入試の導入</p>	<p>(1) 近隣のエリアにつながるの深い人員を配置し、特に地元エリアからたくさん生徒が通う学校作りを進める。</p> <p>(2) HPにおいて、各学年からの情報発信を増やす。本校の教育に対する理解者・支援者を増やす教育広報の面での取り組みを意識する。</p> <p>(3) 高校新コースの設置準備と、早期での積極的広報活動</p> <p>(4) 中学入試での特色入試導入とそれによる入学者数増</p>	<p>(1) ・地元中学・塾への訪問数 ・地元地域からの志願者数・入学者数 ・入試関連イベント動員数</p> <p>(2) ・学年からの記事投稿数 ・HPのPV数 ・学校評価アンケート ・入試イベント動員数</p> <p>(3) ・高校での創造コース設置 ・創造コースの教育内容(予定)の広報(動画・リフレット・HP更新) ・創造コース志願者数、入学者数</p> <p>(4) ・TW (Team Work) 入試の準備・実施 ・TW入試体験会の実施 ・TW入試受験者数</p>	<p>(1) この2年、特に高校での生徒募集が思うように進まなかったが、地元を中心に中学訪問をする人をあて、丁寧に訪問を行った。今まで以上に関係性の構築が進み、高校では予想した以上の入学者456名を迎えられた。中学入試でも近隣からのイベント参加者は増えてきているが、それを入学につなげる点が課題である。</p> <p>(2) 学年からの発信を意識して、学年発信の記事投稿数は157件で、昨年度の倍以上の数となった。HPの月別平均PV数は10万を超えているが、昨年度よりはやや減少。探究サイトのO-DRIVEのPVをカウントすると大幅増となる。募集広報と教育広報の両面での発信に継続的に取り組む。</p> <p>(3) 高校での新たなコース「創造コース」を設置し、第1回の入試において32名の入学者を迎えた。ほとんどが専願での入学であり、広報活動や体験授業を通じて支持を広げた。予想以上に公立中学校や受験生の保護者にも、本コースの展開する教育についての理解が深まり、手ごたえを感じながらの募集活動であった。</p> <p>(4) 高校における新コース「創造コース」の特色入試と同じ名前のTW入試を実施できた。周知期間が短く、塾等にも広く広報できなかったため、大きな成果にはつながっていないが、日程を含めた見直しを行い、10名以上の入学者を確保する。</p>
<p>4 安心・安全な学校づくり</p>	<p>・新しい生徒指導・生徒支援の在り方の検討・実践 ・学校医や外部機関との連携強化、継続的なコロナ対策 ・SSWの導入と人権・厚生部および各学年との連携強化</p>	<p>(1) 新しい学びのあり方と生徒指導のあり方を対話を通して検討し、必要に応じて具体的なルールの見直しにつなげる。</p> <p>(2) 法人内での制度整備、学外関係機関との継続的な連携</p> <p>(3) SSWの導入と人権・厚生部や各学年、管理職との連携強化</p> <p>(4) 人権・厚生部の正式分掌化の準備と、SCとSSWとの役割確認と連携の強化</p>	<p>(1) ・生徒指導部と生徒会の生徒との対話 ・生徒指導部と学習推進部の対話、ルールの見直し</p> <p>(2) ・スクールロイヤー相談 ・リスク管理小委員会の開催 ・初等中等部との連携 ・部長・主任会での情報共有</p> <p>(3) ・問題行動・処分案件の件数 ・学校評価アンケート</p> <p>(4) ・人権・厚生部の設置準備・完了 ・新たなSC採用 ・学校評価アンケート</p>	<p>(1) 以前から継続している、取り締まり方式の学校ではなく、生徒と共に学校を作っていく取り組みを大切に進めた。生徒会の活動が活性化し、生徒がコロナ禍においても様々な課題に積極的に取り組み、ルールの見直が進んだ分野があった。教員同士、生徒同士、生徒と教員の間での対話による課題解決が進んできている。</p> <p>(2) 前年度に引き続き、コロナ対策のために会議を開催し、安全な学校運営を行った。法人との連携も継続的に進めた。スクールロイヤーへの相談件数は減ったが、事前の対応を相談できる態勢がとれており、学校運営が安定してきている。</p> <p>(3) 上記(2)と重なる面があるが、ことが起こる前の取り組みができるようになった。部長・主任会において生徒情報を共有し、管理職とも一体となってリスクマネジメントを行うことができるようになった。</p> <p>(4) 特に新型コロナウイルス感染症について、頻繁に小委員会を開催した。法人との連携を密にし、安心・安全な学校づくりを進めた。生徒・保護者の満足度は極めて高かった。</p>
<p>5 働き方改革の推進</p>	<p>・新たな勤務体制の円滑な運用と週休2日制への準備 ・働き方改革委員会とコンサル、管理職との意見交換の場の活性化 ・部長・主任会と衛生委員会での労務チェック、主任と管理職の面談実施</p>	<p>(1) 曜日休制度の確かな運用と、週休2日制への移行の準備</p> <p>(2) 働き方改革委員会、コンサル、管理職との意見交換による継続的な制度整備と改善</p> <p>(3) 部長・主任会での労務チェック、産業医を招いての衛生委員会の開催</p>	<p>(1) ・曜日休制度の運用 ・在校生保護者と入試イベント参加者への制度説明 ・校内教員への制度説明</p> <p>(2) ・推進委員会との意見交換 ・法人組織との意見交換 ・教員への進捗報告・情報共有</p> <p>(3) ・パソコンへのデータ入力による勤怠管理 ・オンライン朝礼実施 ・各種会議の効率化と情報共有のシステム整理</p>	<p>(1) 過渡期的措置として設定した曜日休制度を円滑に運用した。次年度からの制度移行を在校生と保護者、受験予定者と保護者に説明した。校内教員にも具体的な計画を示し、理解を深められた。</p> <p>(2) 法人との対話の中で、働き方に関するプロジェクトが発足。その中での意見交換等を経て、具体的な改善につなげられた。週休2日制を含め、法人の支援があり、少しずつではあるが、制度整備が進んでいる。</p> <p>(3) この数年で、特にコロナ禍において、メリハリをつけた働き方が進み、有給の取得率も増えてきている。会議等に必要となる時間も、ICT活用等によって効率化が進んで、短く、また回数も少なくなっている。産業医との連携、心配な教員の面談指導も実施できている。</p>